

世界は、次の大戦を前にした、戦間期にあるのではないかと危惧するような空気をはらむようになった。

あの澄み切った天空から、この地上を見てみると、神でなくとも、何と愚かなことをしているのだろうと思うに違いない。

僕はふと、自我を離れて宇宙から人間を見つめたような思いにかられて綴ってみた。

.....

僕はたまたま人間として、この時代に、ここ日本で自分が望んで(自分の意思で)生まれ育ってきた訳でない。時代が少しずれて生まれていたら、どこか外地で命の危機に遭遇していたかも知れない。ところ変わって命授かっていけば、紛争の地でおののいていたかも知からない。あるいは不自由な身体で生まれていたら、世に横行する差別受ける側に居れば、卑屈な境遇の中で悩みぬいていたかも知れない。

ひよっとして、僕はコバエや魚や羊であったかも・・・

生まれてこの方、幸・不幸も、自分の意志によって左右できない「運命」もある。

憎つくき彼は、この僕であったかも知れない

創造神の気分や、自分ではどうすることも出来ない運命によって、ひよっとして、「あの彼は自分であったかも知れない」のだ。

そんな見かたで俯瞰すると、

考え方や主義が違うから、領土や国が違うから、宗教が違うから、人種や民族が異なるから・・・などと、相手の事情や境遇も

解かるうとせず差別したり反目し合ったり責めたり、果ては争って・・・そして世界は今、その先の心配を抱えるに至っている。禁断の「核」に触れれば、その途端、極東でも核保有国の存在が俄かに現実の恐怖となって立ちはだかること必定だ。

もういい加減、争いはやめてもらいたい！

も一度、彼も僕も一緒、皆んな同胞の昔に戻れないか！

（あの天空から観ていれば、誰しも同じ気持ちになるだろう）

.....

思うに、元来は弱者の人類が何十万年も、この地球上で生き永らえて来れたのは、弱い者同士がみんな協力し合って、お互いを守って来たからに他ならない。そうした知恵を以って育ってきた筈の文化を持つ同胞同士が、いつの間にか争いを繰り返すようになってしまっている。何とも愚かなことだ。

原点に立ち戻って、徹底的な話し合いによる解決を図るべきだ。手に矛（武器）持つべきでは決してないだろう。

それこそ、人類がこの地球上で生き永らえるための唯一無二の知恵だろう.....

今朝も、小学生たちが三々五々、元氣な声を上げて登校する。その姿に、責任のようなものを感じるようになった。

今、教育の基本に置いて欲しい」と

ぜひとも幼年からの教育の基本に据えてもらいたいのは、人と人、ひいては国と国の付き合いで、異なる難しい局面を乗り切るとき、常に自分は相手であったかも知れない「相手の立場にもなって考える」思い遣る人間教育が必要だと、強く思う。

（続く）